

今回の当初予算には、花畑別館跡地利活用検討経費・3,020万円に加えて、熊本城ホール整備経費・72億8500万円、桜町再開発事業・41億9670万円、シンボルプロムナード等整備事業・1億5300万円等の中心市街地活性化にかかる各種事業費予算が提案されています。花畑別館跡地利活用を中心に、これまでの議論を踏まえ、お尋ねいたします。はじめに、花畑町別館跡地利活用の検討経緯について伺います。

1、公共施設マネジメント特別委員会では、「昨年夏にみずほ銀行に話を持ち掛けた」という説明があったようですが、最初話を持ち掛けたのはいつで、その後何回くらい打ち合わせ・お話をされたのでしょうか。

2、みずほ銀行との共同整備ということは、これまで議会に全く説明されていませんでした。協議を行う過程の中で、議会や市民への説明を行うべきではなかったでしょうか。なぜされなかったのか、理由をお聞かせください。

3、今回、公共施設マネジメント特別委員会に出された基本構想（素案）には、隣接地権者・みずほ銀行との共同整備による公民連携手法による4つの整備パターンが示されています。共同整備に関するみずほ銀行との合意形成は、どの程度行われているのでしょうか。

4、昨年3月の一般質問で市長は、「解体後の跡地利用は検討中」と答弁されています。3月議会の後、みずほ銀行に話をするまで、どのような検討をされてきたのか、その経緯をご説明ください。また、その時点でなぜ議会や市民への説明をされなかったのでしょうか。

市長にお尋ねいたします。

（答弁）

答弁では、隣接地権者・みずほ銀行に昨年7月に共同整備の可能性に関し

て確認したということでしたが、これまで何回くらい打ち合わせをされてきたのか、お答えがありませんでした。おおよそ何回くらいのお話をされたのでしょうか。

(答弁)

……(お答えがありませんが)民間事業者であるみずほ銀行と数回にわたり何らかの話をされてきたことは間違いありません。そうでなければ、民間と一体になった整備をすすめるという方針で、基本構想に民間一体型で公民連携手法による整備パターンを4つも示すなどできないはずです。

今年の3月議会からまる1年、みずほ銀行に打診された昨年7月からでもすでに7カ月以上が経過をしているのに、その間、議会に対して何ら説明がされていません。市長は、昨年3月の一般質問に対し、「適宜議会を初め市民の皆様に対し丁寧の説明してまいりたいと考えております」と答弁なさったことはお忘れになったのでしょうか。1年間、何の経過説明もしないで予算を提案されたことは、説明責任が抜け落ちていると思われませんが、いかがでしょうか。市長の見解を伺います。

(答弁)

……

次に、花畑町別館跡地利活用の手法等について、お尋ねいたします。

1、公民連携手法による整備を検討していく理由として、ライフサイクルコストの削減や中心市街地の賑わい創出等に資する機能を誘導する効果を発揮させることができることを挙げられていますが、具体的にどのような効果があるのか、ご説明ください。

2、共同整備による公民連携手法で新たなビルを建設する場合、どのような活用によって、賑わい創出につながっていくのでしょうか。また、どのように判断された根拠をお示しくください。

3、 公民連携手法による4つのパターンで財政的な収支見通しが示されていますが、花畑町別館跡地だけで直営による従来方式による延べ床面積16,500平方メートルのビルを建設した場合の50年間の収支見通しはどのようなものでしょうか。

4、「花畑町別館跡地だけで直営による従来方式」にするのか、「共同整備による公民連携手法」ですすめていくのか、議会や市民への説明を行い、意見を聞くべきではないでしょうか。

5、 整備にあたって、国庫補助の活用見通しはどのようなものになっているでしょうか。

6、 新ビルの高さは、海拔何メートルを想定されているのでしょうか。
市長ならびに政策局長に伺います。

(答弁)

市長は、公民連携手法による整備の具体的な効果については、「今後行われる利活用検討経費による整備内容の整理や整備手法ごとのトータルコストを精査する」という答弁をされました。それは当然のことですが、なぜ公民連携手法による整備が効果的であるのか、基本構想に「公民連携手法を前提に検討する」と書かれた今の時点で、基本的な点くらいは説明すべきです。

花畑町別館跡地だけでの直営の従来方式による整備の収支は説明がありませんが、財政面で必ずしも公民連携手法が大きく有利になるとは言い切れませんし、私たち議会には判断の材料すらいただいております、判断することができます。きちんと比較し、判断できるように説明こそ必要ですが、議会に意見を求めることなく、現在示されている「基本構想」(案)を見る限り、「公民連携手法先にありき」となっている点は問題だと思います。それぞれの手法における収支見通しやメリット・デメリットを示し、議会へも意見を求めながら、利活用についての検討をすすめていくべきであり、今回の利活用検討経費の予算提案は、議会や市民をあまりにも軽視したすすめ方ではなかったかと思えます。

また、公民連携手法ですすめていく場合の問題点は、事業全体が民間の儲

けという目的に沿って展開されていくことです。財政の平準化やコスト削減、街の賑わい創出など、前向きな面が強調されて事業がすすめられていきますが、民間事業となれば、桜町再開発事業がそうであるように、許される条件の範囲内で、最大限の高度利用が図られ、総実用面積がより多く創出されます。ビルの高さは、海拔55メートルの範囲を超えないとのお答えでしたが、8階というのが整備イメージに書かれており、景観形成基準ギリギリのところではビルの高さが決められるのではないかと思います。高度利用によってフロア面積が広がれば、建設を行う民間事業者にとっては、大きなメリットとなっていくでしょうが、熊本城の目の前に、敷地面積も広いことからポリュームのある、景観基準ギリギリの高いビルを建てることについては、市民のみなさんの中にも様々な意見があるのではないのでしょうか。この点については、市民のみなさんの意見を十分に聞くべき必要があることを指摘しておきます。

そこで、市長に1点伺います。

市長は先ほど、今後、「今回示した基本構想案に沿い、議会はもとより利用者や関係団体等のご意見を拝聴しながら、具体的に検討をすすめていく」と答弁されました。私たち議会や関係者のみなさんが意見を述べていくためには、事業の内容について、きちんとした情報を提供していただくことなしには、適切な意見を述べていくことはできません。これまで、民間主導の開発事業は、事業費の負担はもちろん、公が様々に関与する事業であるにもかかわらず、民間事業であることを理由に、その内容が十分に説明されないことが多々ありました。議会や関係者の意見を聞くというのであれば、それができるとような情報提供をきちんと行うべきと考えますが、いかがでしょうか。

(答弁)

.....

続いて、中心市街地活性化策に伴う財政見通し等について伺います。

中心市街地の活性化にかかわって実施していく事業は、桜町地区再開発、

熊本城ホール整備、シンボルプロムナード等整備、花畑町別館跡地整備など、今後数年間のうちにかんがりの費用をつぎ込んですすめられます。2022年度までの財政の中期見通しの年度ごとの投資的経費にどのように反映されているのでしょうか。また、現行の財政の中期見通しには含まれないものの、その後の本市財政に反映されてくるものもあります。長期にわたり多額の経費をつぎ込んでいく事業であることから、今後の本市財政にどのように影響してくるのか、長期にわたる財政見通しを作成し、議会や市民に対し、十分に説明すべきではないでしょうか。

(答弁)

2018年度から2022年度までの5年間の現行中期財政見通しでは、熊本地震分を除く、各年度の投資的経費額は、2019年度461億円をピークに、どの年度も400億円を超えています。

市長は、長期見通しの必要性について、明確に答弁なさいませんでしたが、「今後とも、本市財政の将来的な見通しの精度を高めながら、計画的な財政運営に努めるとともに、市民や議会のみなさまにお示しし、しっかりと説明してまいります」と答弁されました。しかし、現行の中期見通しにおいてすら、2020年度以降は、投資的経費の積算を「直近3カ年の決算の平均値である400億円を目安に推移していくものと整理している」と説明されましたが、これは希望的な見通しによる説明であると言わざるを得ません。

そこで市長に伺いますが、私は、財政について長期的な見通しを持ち、何らかの形で示していくべきであると考えています。市長が「将来的な見通しの精度を高めながら、計画的な財政運営に努める」と言われるのであれば、せめて現行の中期財政見通しにおいては、投資的経費も必要な事業費を積み上げて、その内容を市民に示していくべきではないかと思えます。そうであれば、精度は上がりません。いかがでしょうか。

(答弁)

.....
大雑把な説明や見通しで、大きな事業をどんどんすすめることにはたいへん危惧します。

過去には、超豪華なハコモノ建設や用地買収、大型開発など様々な無駄遣いがあり、市の財政を悪化させてきました。そのたびに、財政健全化に取り組みましたが、縮減されてきたのは、福祉や暮らしの予算でした。一方、ハコモノ建設等によって増えた公共施設やインフラ等の老朽化によって、維持管理・修繕費が市の財政を圧迫する時代となりました。無駄を正すだけでは、財政状況は改善しない、合わせて公共施設マネジメントにも取り組む必要性に迫られています。

そういう中で、桜町再開発・熊本城ホール整備事業への補助金含めて450億円の投資、20億円もかかるシンボルプロムナード等整備事業などがすすめられ、加えて、花畑町別館跡地への100億円規模のビル建設に熊本市もかかわっていくとなれば、市の財政を心配するのは私だけではないと思います。

最後に一つ市長に伺います。今後、花畑町別館の跡地利用が公民連携手法で、民間事業者によって整備されていくとなれば、計画の段階から十分に説明が行われていくのか、契約業務が公に準じた入札方法で行われていくのか、その情報は公開されるのか、熊本市の資産が適正価格に活用されていくのか、民間事業ではあっても、それぞれの段階において、議会や市民への十分な情報提供と説明責任、意見聴取が行われなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

(答弁)

.....

今回の質疑で指摘した点を十分に踏まえて、今後取り組んでいただくことを要望いたします。しめくり質疑を終わります。